

姿の花

長唄 全詞章

作詞者・作曲者・初演年不詳

原典の題名「すがたの花」

さりとは、ひとり焦がるる心の闇は晴れやらで

移ろふものは花の色、梅が香見んうぐひすの、谷より出でて、まだ里馴れぬしんき
心にやるせがほんにないぞへ

水の鏡に顔見れば、見かはすほどの髪かたち

さりとは、ああいかならん、身の行方

何と忍ぶの、しのぶの乱れ、誰ゆゑに

朝な夕なの物思ひ、誰汲み上げて訪ふ人も

我が身はひとり物思ふ

思へば夢の世をしらで、恋のしがらみ堰きとめよ